

[準硬式野球] 全日本大学

堂々の3位に 秋季リーグ戦へ弾み

全日本大学準硬式野球選手権が8月18日から23日まで、仙台市のフルキャストスタジアム宮城ほかで行われた。関東地区大学選手権を制した専大は同地区代表として出場し、3位と健闘した。

1回戦で金沢大学教育学部に14—4の大差で勝利。波に乗り、続く2、3回戦を順調に勝ち進んだが、準決勝で地元・東北学院大に2—3で敗れ、日本一には手が届かなかった。しかし、4連投したエース・田中暁(経営2・鳴門工高)の活躍など、十分に胸を張れる結果を残した。今月から始まる東都大学秋季リーグでも専修旋風を巻き起こしてほしい。



▲好投したエース・田中

(田口 能成・経済3)

[卓球] 全日本大学対抗

男女ともベスト8

団体の大学日本一を決定する全日本大学対抗卓球選手権が8月2日から5日まで、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で行われ、男女ともベスト8入りした。

【男子】予選リーグで東北福祉大、富山大を3—0のストレートで下し決勝トーナメントに進出。1回戦で朝日大に3—2で、2回戦では日大に3—1で勝利したものの、準々決勝で明治大に0—3で敗れた。

【女子】予選リーグで中京大、岡山商科大をストレートで下し、決勝トーナメントへ。1回戦で富士大を3—0、2回戦で朝日大を3—2で下したが、準々決勝で立命館大に2—3で惜敗した。

(田口 能成・経済3)

[漕艇] 関東学生カヌー

カヤック部門3位

関東学生カヌー選手権が8月7日から10日まで、千葉県香取市の黒部川ボートコースで行われ、カヤック部門で3位、総合で4位となった。

500メートル×4のリレーでは松田雄幸(経営2・谷地高)、真鍋達朗(商2・久美浜高)、渡邊秀幸(文2・富士河口湖高)、和田恭平(商1・二本松工高)組が、2位と大健闘。K-4(カヤック4人乗り)1000メートルでは佐々木一成主将(文4・田辺商高)、真鍋、渡邊、和田組が3位に入賞した。佐々木主将は「昨年より成績は落ちたが、チーム力は確実にアップしている」と語り、中井文明監督は「良い争いができていたが、最終日は奮わなかった。日本選手権に向け気持ちを切り替え、この経験を生かしたい」と語った。

また、石川県の木場潟カヌー競技場で行われた日本学生カヌー選手権では、カヤック部門6位、総合9位で大会を終えた。

(松本 かおり・文2)

[ゴルフ] 日本学生、日本女子学生

男子宮里11位タイ

日本学生ゴルフ選手権が8月21日から、日本女子学生ゴルフ選手権が同22日から(ともに24日まで)、神戸市の北六甲カントリー倶楽部で行われた。男子4人、女子6人が出場し、男子の宮里政志(文2・鹿島学園高)が4アンダーで11位タイの好成績を収めた。

2007 TOPY CUP

日米大学対抗選手権が9月4、5の2日間、福島県棚倉田舎倶楽部で行われた。男子団体が10位、同個人トップは楠啓吾(経営3・横浜高)の28位タイ。女子は個人戦のみに出場し、木村麻希(経済2・明德義塾高)が18位タイでホールアウトした。

(松本 かおり・文2)

[野球] 東都大学野球2部

秋季リーグ戦開幕

東都大学野球秋季リーグ戦(2部)が9月3日に開幕した。開幕戦の相手は国士舘大。初戦を勝利し流れをつかみたかったが、1回戦2—4、2回戦0—6で連敗を喫し、勝ち点を落とした。長谷高成泰監督は「まだスタートしたばかり。チャンスはまだある。きっちり調整して次の試合を勝ちたい」と語った。

(田口 能成・経済3)

[アーチェリー] 関東学生個人

男子は佐伯が13位 2年連続で全日本学生出場へ

関東学生アーチェリー個人選手権が8月28日から31日まで、駒沢第一球技場で行われた。男子予選を4位で通過した佐伯朋哉(経営2・大宮開成高)が13位となり、2年連続で全日本学生選手権の出場権を獲得した。

また、同大会の成績上位者による関東学生Kカップに佐伯と女子の野村恵(文3・芸術高)ら4人が出場。井野舞子(文3・高崎北高)が11位で、全日本学生A・Jカップの出場権を得た。

佐伯は「反省点は多いので改善したい」と語った。全日本学生での巻き返しを期待したい。

(新海 城生・経済3)

専大杖道会 第19回東京都杖道大会

初段の部で上位独占

第19回東京都杖道大会が7月14日、東京・足立区の東京武道館で開催され、専大杖道会は初段の部で上位を独占した。

優勝は橋本将朋さん(文2)と小谷純司さん(日本武道館所属)。準優勝は平山幾実さん(文4)と瀧祐太さん(文2)。ベスト4には佐藤雅之さん、大沢瑞季さん(ともに文2)が入った。

杖道の試合は、2人1組で一方が杖、他方が木刀で立ち向かい、指定技(形)を2組が同時に演武。充実した氣勢、正しい姿勢、正確な打突、間合いと間、礼法などを競う。ペアを組んだ両者が息の合った演武をこなせるかどうかのポイント。



▲右から優勝の小谷、橋本、準優勝の瀧、平山の各選手

5月下旬から6月上旬のはしか休校で、専大杖道会は学内練習場を使えなかった。しかし独自に練習を重ね、ハンデを乗り越えた。

顧問の宇都榮子文学部教授は「初段の部での活躍は、秋以降につながる成果。夏休み中も猛暑の中、練習に励む学生が目立ちました」と話している。

国際大会出場選手

◇漕艇部

和田 恭平 アジアフラットウォーターレーシングジュニア選手権(9月11～17日＝韓国・華川郡レガッタコース)

◇卓球部

杉田 早苗(商4・四天王寺高)

杉本 枝穂(文3・青森山田高)日本・韓国大学生交流戦(8月27、28日＝東京体育館サブアリーナほか)

◇レスリング部

稲葉 泰弘 シニア世界選手権(9月13～23日＝アゼルバイジャン・バクー)